

令和元年度 狭山市立狭山台中学校学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

- A : よくできている。 (90%以上)
- B : 概ねできている。 (85%以上)
- C : あまりできていない。 (70%以上)
- D : できていない。 (70%未満)

領域	番号	評価項目	評価	自己評価	学校関係者評価委員から
				説明	評価 (文章表記)
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	○「安心安全」「積極的な生徒指導」「わかりやすい授業」の3領域において教職員は肯定的評価が全て9割以上、生徒アンケートにおいて「学校生活は楽しい」「自分の学級は居心地が良い」の回答がそれぞれ肯定的評価93%、91%であった。○保護者アンケート「学校は保護者や地域の期待に応えようとしている」では、肯定的評価91%であった。また、記述においても、全力で行事に取り組む生徒の姿勢、それを支える教師の意識も評価されている。さらに新しい施設ではないが、いつもきれいだである。整備がされていると評価いただいた。いじめ防止への継続的な取組もよい点としてあげていただいた。	○教職員評価が前年度より上がっているのは、職員が課題意識を持ち、努力している結果と考えます。○教職員間の協力や職員関係は、行事を通して概ね良好であると感じますが、「職場」の項目でやや努力を要すると回答している教職員の増加が気になります。○何を目玉にあげるかを定めることが大切である。目玉を実践する場を具体的に設定することが大事である。○アンケート結果から見て、校長の経営方針を教職員、生徒、保護者にそれぞれ浸透させ、具体的な取組をして成果を上げていることはすばらしいと思う。○生徒が学校生活は楽しい、自分の学級は居心地が良いと感じていることから狭山台中の安定感がみえます。校内は乱雑なイメージはなく、整理整頓が行き届いています。先生と生徒の信頼関係が築けていることが、生徒の学校は居心地が良いにつながっているのだと思います。ただし、そう感じていない生徒がとりこぼれていかないう関わっていくことが課題になります。
	2	生徒は、学校生活が楽しいと感じている。	A		
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A		
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	A		
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	B		
学習	6	教師は、生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	○授業力向上については継続的な課題である。「授業のわかりやすさ」について、生徒・保護者アンケートでのいずれでも数値を上げることでできた(とくに保護者についてはC評価がB評価に)。○校内にあたたかみのある掲示物が多く、落ち着いた学習環境が保持できている。○県学習状況調査や新体力テストにおいて数値の向上が見られる。互見授業、研修を継続し、授業改善を進めていく。○改善点として家庭学習定着の課題解決に小中一貫教育の視点を持って取り組む。○進路指導・キャリア教育の充実とよりよくいきるための道徳性の育成に取り組んだ。生徒アンケートでは「道徳の学習では自分を見つめることができた」において肯定的評価が9割を越え、B評価からA評価に向上した。	○生徒と保護者の視点に相違があり、保護者からは家庭学習の習慣が身につけていないと感じているように……。保護者の視線は厳しいのでしょうか。7月にスタントマンを支えた交通安全教室は個人的にも興味のわく教室でしたが、意外と保護者が来ていないことに驚きました。○ハローワーク狭山台が中止になってしまったことは残念ですが、職場体験などを通じて、自分の進路を考える機会をもっています。○家庭学習習慣の定着は毎年の課題、小学校での評価も低いので、小中一貫教育で指導を工夫していかるとよいかと。○進路指導・キャリア教育は学校、PTAの協力のもと、大変よい取組なので、今後も続けていただきたいと思えます。○学校では力をつける場と競い合う場と発表の場を設けているので成果が上がっていると思う。○最小の努力で最大の効果をねらう人が多い。最小の効果を上げるにも最大の努力を惜しまないという精神を持たせたいものです。そのことが結果的に学習の成果が上がるものであることを指導したい。
	7	生徒は、落ち着いた学習に取り組んでいる。	A		
	8	生徒は、基礎的・基本的な学力・体力を身につけている。	B		
	9	生徒は、家庭学習の習慣を身につけている。	B		
	10	生徒は、進路学習や道徳において自分の将来や夢について考え、自分のことを見つめることができている。	B		
規律ある態度	11	生徒は、進んであいさつをしている。	A	○「あいさつ」については保護者からの記述でもほめていただいている。○狭山台中当たり前のこと十ヶ条」の取組で行動基準を明確にし、毎月の振り返りで生徒の自主的な取組を促している。○生徒アンケートでほとんどの項目が肯定的評価9割を越え、教職員の指導と合わせて、生徒も自覚を持って生活できた。○教師は範を示す者として研修に努め、生徒の活動をしっかり見届ける指導を継続していく。○本校の特色であるハローワーク狭山台や無言清掃への取組、そして生徒と作り上げる学校行事など時間も労力もかかるものではあるが、自尊感情を育む大切な活動として継続する。○不登校や欠席がちな生徒への個に応じた対応は次年度も課題としてを継続していく。	○生徒指導面は教師のチームワークを強めることによって生徒はこぼれないと思う。それが実現できているから成果が上がっているものと思う。○校長を中心に見えない糸でつながっていることが大切である。一つ押すと響く様な本当のチームワークが要求される。そのためには学校内の温かい人間関係の醸成が必要で、そのコンディショニングを整えるのが教頭であり、上手にしているの、よい結果があるものと思う。○学校外でも乱れた服装の生徒を見かけることはないです。先生が規範意識を高める手本であると常に意識されているのだと思います。○地域での生徒の姿は評価が高いようです。生活のルールや「当たり前前」はなぜ必要なのかを生徒に考えさせ、納得して自分を律することができるようにしていくことが望ましいかと思えます。○若い先生が多くなり、多様な価値観の先生が増えているようですが、「当たり前前」を先生も守れているか再認識をお願いしたいです。
	12	生徒は、場に応じた言葉遣いができている。	B		
	13	生徒は、時間を守って生活している。	A		
	14	生徒は、きまりを守って生活している。	A		
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	B		
健康・体力	16	学校は、生徒の体力を高めている。	A	○体育科への取組、部活動への参加態度など元気な取組が見られる。「部活動は楽しく取り組んでいる」では9割以上の生徒が肯定的評価であった。活気あふれる体育祭には保護者・地域の方が1300人以上来校された。○保健指導に関しては生活習慣の見直しに力を入れている。睡眠、食事、スマホの指導には家庭の協力が不可欠である。関連する講演会を実施してもなかなか参加率が上がらないのが課題である。	○家庭環境の多様化、情報過多のなか、学校教育の中で健康や生活への正しい知識の指導の必要性を感じます。○ほめて育てる事がよくできているものと思う。自らに課題を持たせることが大事である。○生徒も保護者も部活動に楽しく取り組んでいると評価していることから十分であることが理解できます。
	17	生徒は、体育や部活動に意欲的に取り組んでいる。	A		
	18	生徒は、健康を意識した生活をしている。	B		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	○保護者アンケートでは「たより等を活用した情報提供」「地域や保護者の期待に応えようとしている」とも肯定的評価90%以上であった。○地域行事等において生徒ボランティアの参加や教職員の協力など、具体的な協力を継続することができた。	○学校は、家庭、生徒を取り巻く環境を理解し、支援や教育活動を行っていると思います。○台中の地域活動への理解、協力、参加は積極的であり、大変評価できます。生徒が地域活動を通して得られた経験を再度振り返り、自己有用感を得られるような指導を臨みます。○お互いに心が通じ合っている。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A		